

金曜ウォーク@宇部 2022.06.03 (金) 第512回目 2012.08.12 から

発行：いのち・未来うべ 宇部市立図書館 雑誌スポンサー 『世界』(岩波書店) を提供

連絡先：〒755-0029 山口県宇部市新天町1丁目2-36 宇部市民活動センター「青空」

電話 080-6331-0960 (安藤公門)

◎小出裕章さん講演会 2022

2022年4月16日

宇部会場の講演会の動画がアップされています。

<https://www.youtube.com/watch?v=KtA-YGmQzls>

⇒ QRコード



○新潟県知事選

花角 英世 703,694 (77.5%)

片桐 奈保美 203,845 (22.5%)

片桐氏「あの時点では出る以外にはなかった。正しいと思っている。時間が足りなかった」

○北海道 泊原発、差し止め判決 5月31日 札幌地裁

判決本文などの基本資料は、下記に。

<http://www.datsugenpatsu.org/bengodan/news/22-5-31/>

○ 島根県知事 島根原発の再稼働を容認

「事故起きたらパニックに…」島根原発の避難計画、住民の懸念 (毎日新聞)

<https://news.yahoo.co.jp/articles/65d3fba3044d5dacf6f88ddcddb718a02682be73>

知事の島根原発再稼働同意で市民団体が抗議運動 島根県 (日本海テレビ)

<https://news.yahoo.co.jp/articles/f4087eec5c54aa2832f7bdcf0bfafe35202699cf>

知事の島根原発再稼働同意で市民団体が抗議運動 島根県

6/2(木) 19:37 配信

日本海テレビ



日本海テレビ

丸山知事の再稼働に同意するという表明を受け、島根県庁前では市民団体による抗議運動が行なわれた。

【資料】安定ヨウ素剤 長野県松本市議会 議事録から 2018年12月議会

◆10番（田口輝子） 質問に入る前に一言、私は、ことしもまたこの11月に福島県に行っていました。1年ごと震災の現場に立ち、何ができるのか原点に戻る機会としています。7年9カ月が過ぎ、震災の爪跡が一つ一つ片づき、新しい建物、まち、道がつくられています、いまだに目に見えない放射能との戦いが続いています。これはむしろ見えないがゆえに、深く深く、住む人々を苦しめている現状です。薄れがちな福島の現実を改めて実感し、人の命を守るということの基本を突きつけられました。今、日本を含む世界中が大きな災害に見舞われています。できることは一つ一つ備えていく、そんなことを重く受けとめて帰ってまいりました。

そんな思いのもとで1件目の質問です。危機管理について、安定ヨウ素剤の配布について伺います。

（中略）松本市は、そのための災害対策に取り組んでいます、中でも大地震による原子力災害について松本市医師会のご協力のもと、松本市災害時医療救護活動マニュアル原子力災害編が作成されています。そして、全国でもまだほとんど取り組まれている安定ヨウ素剤が備蓄され、そのマニュアルがしっかり記載されています。原子力災害で放出される放射性ヨウ素を人が吸入し、体に取り込むとそれが甲状腺に集積するため、放射線の内部被曝による甲状腺がんが発生する可能性があります。それに対して安定ヨウ素剤を予防的に服用すれば、甲状腺への放射性ヨウ素の集積を防ぐことができるため、特に子供の甲状腺がんの危険度を下げどめる効果があります。松本市は、緊急時のため40歳以下の市民、また観光客分の安定ヨウ素剤を備蓄し、市民の安全・安心に対応しています。この取り組みは、今の被災地の現状を見て高く評価できるものだと思っています。

しかし、心配なのは配布についてです。（中略）

まず、1点目の質問として、現在の備蓄の状況と配布についての考え方をお伺いいたします。

◎危機管理部長（嵯峨宏一）〔登壇〕

初めに、備蓄状況についてお答えいたします。

議員ご発言のとおり、松本市では、原子力災害に備え40歳未満の市民用として約9万7,000人分及び観光客を含めた市内滞在用として約1万8,000人分の合計11万5,000人分の安定ヨウ素剤を備蓄しています。また、備蓄場所につきましては、3歳以上40歳未満の市民用の丸薬は、市立小学校28校に、そして3歳未満の分包の粉薬及び市内滞在用の丸薬は長野県薬剤師会の会営薬局など4カ所に備蓄しており、丸薬は3年で、分包は1年で更新しております。

次に配布の考え方ですが、事前配布と緊急配布に区分し、対応を定めております。事前配布については、各家庭への配布と学校等への備蓄の2種類があり、現在、小学校へ備蓄していることにつきまして

は事前配布の一環でございます。緊急配布は、災害時に医療関係者で構成する本部医務班が原子力災害の状況から市民が安定ヨウ素剤を服用すべきと判断した場合には、その旨を市長に提言し、市長が予防服用を決定いたします。市長の服用決定を受けて備蓄している各小学校を担当する医師が来場した市民に安定ヨウ素剤を配布することとしております。

以上でございます。

◆10番（田口輝子）〔登壇〕

状況については了解いたしました。

2点目で伺いたいと思いますけれども、個人配布、事前配布について伺います。事前配布について先日、兵庫県篠山市の取り組みを伺う機会がありました。篠山市も原子力発電所からは30キロ圏外ですが、2016年から事前配布を実現させています。松本市の原子力災害マニュアルに、安定ヨウ素剤を服用までの手順が記されています。薬ということで、医師やほか専門家の指示が重要で、副作用も含め慎重に対応する必要がありますと思いますが、11万人に対応し、子供たちには緊急性があるということで希望者からでも窓口をあけて事前配布に向けての対応ができないか、その辺の検討ができないかという意見をいただいております。対応に課題が多くあると思いますが、市として希望者に対しての窓口をあけて事前配布の検討ができないかお伺いいたします。

◎健康福祉部長（樋口浩）お答えします。

議員のご指摘のとおり、事前配布は緊急時に機動的に対応できるという利点がある一方、医師による住民説明会の開催、市民への周知、また配布後は市民に管理を委ねるため、紛失、誤飲、第三者への譲渡などの課題もあり、慎重かつ丁寧な対応が必要と考えております。現在、国の原子力規制委員会では、安定ヨウ素剤の配布、服用に関し、これまでのガイドラインの簡便化について事前配布の方法も含め検討をすることとしており、早ければ来年の夏を目途に改訂する見通しと言われております。これら国の動向を注意してまいります。以上です。

◆10番（田口輝子）〔登壇〕

国の動向を見てということですので、その辺のところを検討しながら、ぜひ前へ進めていただきたいというふうに思います。せっかくの子供たち、若い方々を守る取り組みです。今、原子力災害で甲状腺がんを苦しんでいる子供さんたちが、日本でも200人以上いるような現状です。あつては困る事故、災害ですが、いざというとき市民を守る取り組みを生かし、市民の皆さんにお知らせしていくためにも検討をお願いいたします。（以下略）

【下記サイトからコピーしました。

<https://onl.sc/uja2S8g>。強調は引用者】